

農林水産省生産局畜産部畜産振興課

飼料作物を増産しよう

粗飼料まで輸入に頼っては消費者の理解は得られません。
自給飼料に立脚した安全で安心な畜産物を生産することが求められています。
飼料の増産は、飼料自給率の向上を通じた食料自給率の向上のためだけでなく、
国土の有効活用、資源循環型畜産の確立という意味でも重要性を増しています。

1 耕畜連携で、稲わらの飼料利用、稲発酵粗飼料の生産拡大を進めよう！

水田を活用することで、自給飼料の増産は可能です。
肉用牛経営に不可欠な稲わらは、そのほとんどが、すき込みや焼却され、飼料として利用されていません。
また、水田をそのまま利用できる「稲発酵粗飼料」は、畜産農家との連携がとれれば、更に、作付けを増やすことが出来ます。



稲発酵粗飼料の収穫専用機

2 中山間地域などの耕作放棄地や水田を利用した放牧を進めよう！

肉用牛は、牧草はもちろん、野草や雑草を飼料として利用できます。
最近、「ソーラー式電気牧柵」の普及などにより、「どこでも、だれでもできる」肉用牛放牧への取り組みが、各地で盛んになっています。
また、酪農でも、ソーラー式電気牧柵を利用した「移動放牧」により、効率的な「集約放牧」を実施する人が増加しています。



取組が増えている水田放牧

3 国と地方と団体が一緒になって取り組みを進めよう！

飼料生産の核 コントラクターを育てる

畜産農家は労力に余裕のないのが実態。飼料生産を肩代わりできるコントラクターを育成。

人材育成 スペシャリストを育てる

コントラクターの立ち上げや稲発酵粗飼料生産、放牧などの課題を現場で解決できる人材を育成。

増産運動 全国的に展開する

国、地方公共団体、農業団体がそれぞれの役割を果たしながら、共に飼料増産運動を展開。

一緒に汗をかこう。

